

セッション2

南ヤクート総合開発計画

サハ共和国（ヤクーチア）自然保護副大臣 ヤコブ ザロブニャエフ

サハ共和国（ヤクーチア）は、ロシアの北東部に位置し、300万平方キロメートルに達する国土を有する。ロシア連邦のなかでも最も活発に発展を続ける地域の一つである。ダイヤモンド、金、スズ、天然ガス、石炭など豊富な天然資源の産地が確認されており、最近では油田開発が進められている。サハ共和国は、極東連邦管区内で最初に国土開発に向けた長期発展計画を策定した。官民セクターの主な計画はすべて、「2020年までの製造、運輸、エネルギー部門の総合的な発展、戦略スキーム」という政策に盛り込まれている。

サハ共和国の戦略の特徴は、地域間協力をベースにしたヤクーチアの南部、東北、西部地域においてクラスタータイプの大規模な工業基地を建設することにある。ここでは、2020年までの南ヤクートの総合開発の全貌について話をしたい。

南ヤクートの面積は41万5,000平方キロメートルであり、ここに16万人（共和国人口の17%）が住んでおり、人口密度は経済発展が進んでいる他の地域と比較にならないほど低い。ここでは、金、コークス炭、一般炭、鉄鉱石、ウラン、燐灰石、雲母、パーミキュライトなど豊富な資源が確認されている。石炭産地の開発は50年前に始められた。南ヤクート炭田は世界一の埋蔵量を誇り、その90%はコークス炭である。

1980年代に、石炭の露天掘、選鉱設備が導入され、ネリユングリ水力発電の一期工事が完成し、南ヤクートの国土開発の基礎が固まった。さらに、鉄鉱石生産産地、ベルカキト～トットムの鉄道建設のFSが行われた。これらのプロジェクトに投じられた金額は40億ドルに達し、これはバイカル・アムール幹線の経済的効率の向上を図るために向けられた金額の半分であった。

90年代の不況の結果、石炭の産出量は一時の1,500万トンから800万トンに減少した。現在は1,000万トンの水準を維持している。大規模プロジェクトの実施に伴い、いわゆるクラスター基地を形成する計画が策定され、南ヤクートは極東ザバイカル地方のインフラ整備の中心に据えられている。

南ヤクートの資源の確認埋蔵量の試算総額は9,700億ドルに達している。大型投資を誘致するため、「南ヤクート総合開発」という投資プロジェクトが作成されたが、これ

は四つのクラスターにまとめられた有望な事業計画である。一つ目は、原子力クラスターであり、ウラン産地に「エリコン鉱石製錬コンビナート」を建設する計画だ。二つ目は、石炭・鉄鋼クラスターであり、石炭・鉄鉱石産地をベースに南ヤクートの鉄鋼業の発展を促進する。三つ目は、化学クラスター。燐灰石産地近辺に「セリングラード無機化学工場」を建設するほか、石油・ガスパイプラインの建設により炭化水素原料の加工が可能になる。最後は、インフラクラスターで、メガプロジェクトを実施するために、輸送及びエネルギーインフラの整備が絶対条件である。

「南ヤクート総合開発」プロジェクトの遂行にあたり、インフラ向けの政府投資1ルーブルに対し、民間投資3ルーブルが誘発される。投資家にとっては、プロジェクト資金の市場調達の観点から、南ヤクート開発計画に対する国家支援が重要な要素である。そこで、政府は基盤整備及びエリコン鉱石精錬コンビナート建設の予算を計上しており、鉄道支線、道路建設を含むプロジェクトの総額に496億ルーブルを投じる。その他のプロジェクトは民間資金によって実施することになっている。「南ヤクート総合開発」プロジェクトを遂行するために株式会社「南ヤクート開発」が設立され、ここが政府との投資協定締結の相手方となっている。

南ヤクートの石炭産出量の増加は輸出向け輸送能力の拡大を必要とするため、ハバロフスク地方ムチカ湾のワニノ港で積出基地建設が計画だ。これも官民共同事業となる。

「南ヤクート総合開発」とともに注目されているのは、700億ルーブル相当のエリガ炭田開発プロジェクトであり、鉄鋼グループ・メチェル社がその開発にあたる。同炭田の東北鉱区には20億トンの高品質コークス炭がある。硫黄、窒素、リン含有量が低く、露天掘が可能であり、さらに2億3,900万トンの地下掘が可能だ。トランスストロイ社がウラク・エリガ炭田間の道路を建設し、315キロメートルの鉄道が2年後に完成する契約になっている。

このように南ヤクートのプロジェクトは、極東ロシアの発展に大きく貢献し、インパクトを与える。バイカル・アムール鉄道幹線、沿海地方各港の輸送量を増加させ、沿海地方及びハバロフスク地方の石油精製、石油化学産業の発展を促す。また、新たな水力発電所の稼働により、アジア太平洋諸国への電力供給が可能になる。南ヤクートで進め

られるグローバルな事業は極東地方さらに国際社会に対して大きく貢献する。

プロジェクト総額は、2007年1月1日の価格で4,225億ルーブルに達する。その効果としては、エネルギー・輸送という基礎的な地域インフラの整備、極東ロシア最大の成長拠点の確立、2020年までにサハ共和国のGRPを2.5倍に押し上げ、また2020年までに160億ルーブルの税収増を実現することが挙げられる。

サハ共和国自然保護省の立場で、我が共和国が直面し、産業発展に伴って重要性を増している環境保護の課題について触れたい。我が共和国はロシア連邦構成主体のなかで最初に「環境安全保障に関するコンセプト」を採択し、国家エコロジー政策を策定した。国土の30%を重要保護地域に指定した。未利用土地の保全について、世界に類例のないシステムを整備したことで、共和国のイメージアップに

つながっている。

先住民の伝統的な生活様式、すなわちトナカイ飼育や毛皮獣狩猟と結びついた生活様式を保護しているが、これには社会的・経済的に様々な側面がある。

鉱業の活動が自然環境への影響を及ぼしているが、今後の事業拡大が独特の国土景観を損なうことのないような対策をとることが必要だ。環境への影響を最小限に食い止めることが我々の最優先課題だ。全ての参加企業は、自然破壊を最小限に食い止め、自然保護に向けた真摯な対策を講じて、環境基準を満たす環境にやさしい技術を導入することが義務付けられている。

最後に、あらゆるレベルの行政体、自然利用者、社会全体が参加して自然保護に取り組むことにより、大規模な国土開発が環境保全を脅かすことのないように進める必要があるということを申し上げたい。 (文責：事務局)